

令和4年1月23日

第2回講演会報告

鯉城・堀川と生活を考える会

広報 谷田耕三

GⅢ 鵜飼幹雄

寒い日の中、且つ、オミクロン株の感染者急増中のため、コロナ対策を行った上で、本年度の第2回講演会は1月20日（木）13時半から3時まで、ナディアパークの市民活動推進センターで行われ、会員23名が参加しました。

以前、再稼働した露橋水処理センターの見学を行い、一昨年7月、名工大富永先生から「中川運河のみならず、堀川の水質改善も期待される」講演があった。今回、その後の中川運河の水質状況について、令和2年2月名古屋市環境科学センター調査研究発表会での発表内容に加え、その後に得られた知見を中心とした講演内容です。

講師は、名古屋市環境科学調査センター環境科学室 岡村祐里子 研究員

演題は、「露橋水処理センターの再稼働が中川運河の水質に与える影響についての調査結果と小栗橋における水深別の水質調査結果」です。

最初にスライドにより名古屋環境科学調査センターの概要についての説明後、本題にはいり、露橋水処理センターが再稼働したことにより、高度処理された水が中川運河の上流堀止にも放出されるため、良い循環が生まれる期待があるが、一方、処理水は、暖かく、密度が低いため、下層の水とは混ざりにくいことが予想される。

このため、多項目水質計を用いて、露橋水処理センター付近の小栗橋における季節、並びに水深の影響について調査した。結果、夏は、表層（酸素が多い）が暖められるが、密度が低いため、表層と下層（貧酸素状態）の水とは混ざらない、一方、冬は、表層の水が冷却され、密度が高くなるため、下層に沈み、下層の水と混ざりあう。

中川運河の主に表層付近の水は、松重ポンプ場を通して、堀川に流されるので、堀川の水質向上にも良い結果を与えると考えられる。また、今後、名古屋港管理組合により、ポンプ能力のアップが計画されている。



今回の講演内容は、判り易く、季節によって、上層と低層の水質にどう影響されるかについて知見を与えて頂いた。今後の我々の活動の参考にしたいと考えます。